

令和8年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

令和7年11月14日

上場会社名 株式会社日本一ソフトウェア 上場取引所 東
コード番号 3851 URL https://www.nippon1.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 猿橋健蔵
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 平岡三知 TEL 058-371-7275
半期報告書提出予定日 令和7年11月14日
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 令和8年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（令和7年4月1日～令和7年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
8年3月期中間期	1,244	△49.2	△322	—	△189	—	△224	—
7年3月期中間期	2,447	△20.0	△205	—	△136	—	△171	—

(注) 包括利益 8年3月期中間期 △211百万円 (—%) 7年3月期中間期 △395百万円 (—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
8年3月期中間期	△44.39	—
7年3月期中間期	△33.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
8年3月期中間期	11,203	7,634	67.2
7年3月期	11,154	7,868	69.6

(参考) 自己資本 8年3月期中間期 7,523百万円 7年3月期 7,759百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
7年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
8年3月期	—	0.00			
8年3月期（予想）			—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 令和8年3月期の連結業績予想（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	4,774	△9.9	81	—	154	—	31	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P. 9「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	8年3月期中間期	5,151,100株	7年3月期	5,151,100株
② 期末自己株式数	8年3月期中間期	90,856株	7年3月期	90,856株
③ 期中平均株式数 (中間期)	8年3月期中間期	5,060,244株	7年3月期中間期	5,057,768株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が本資料公表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善や政策効果により、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、物価上昇の継続による個人消費の抑制、米国経済の動向、主要国の金融政策や金利動向などにより、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが属するゲーム業界では、eスポーツ市場の発展、モバイルゲーム市場の拡大、デジタル化の進展、クラウドゲームサービスの拡大、VR(仮想現実)及びAR(拡張現実)の技術進化によるゲーム体験の向上、生成AI活用によるゲーム開発の効率化が進み、市場規模は成長し続けております。

このような経営環境の中、当社グループは、当社グループの商品やサービスを通じてゲームという分野に限らず年齢・性別・地域を超えたすべての人々に楽しさを提供し、当社グループに関わるすべての人々が豊かになることを目指してまいります。そのために、「開発力の強化」「販売力の強化」「生産性の向上」に取り組んでまいります。

このような状況の中、エンターテインメント事業におきましては、PlayStation Network、ニンテンドーeショップ、Steam等を通じたゲームソフト及びダウンロードコンテンツの配信に加え、国内で発売されたタイトルの北米・欧州・アジア地域に向けたローカライズ及び販売を行いました。

学生寮・その他事業におきましては、岐阜県内の大学学生寮の運営等を行ってまいりました。

その結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高1,244,232千円（前年同期比49.2%減）、営業損失322,283千円（前年同期営業損失205,956千円）、経常損失189,024千円（前年同期経常損失136,876千円）、親会社株主に帰属する中間純損失224,644千円（前年同期親会社株主に帰属する中間純損失171,856千円）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

(エンターテインメント事業)

パッケージタイトルとして、国内では『風雨来記5』、『連呪』の2タイトルを発売しました。

また、来年発売予定の『凶乱マカイズム』、『ほの暮しの庭』等の開発を進めてまいりました。

その他、PlayStation Network、ニンテンドーeショップ、Steam等を通じたゲームソフト及びダウンロードコンテンツの配信や、北米・欧州・アジア地域に向けた国内で発売されたタイトルのローカライズ及び販売を行いました。加えて、新規タイトルの開発及び関連商品のライセンスアウト、カードゲームショップ「プリニークラブ」の運営も引き続き行なってまいりました。

その結果、当事業全体におきましては、売上高1,184,392千円（前年同期比50.6%減）、営業損失95,537千円（前年同期営業利益43,496千円）となりました。

(学生寮・その他事業)

学生寮・その他事業におきましては、学生支援を目的として岐阜県内の大学学生寮3件の運営等を行ってまいりました。

その結果、当事業全体におきましては、売上高59,839千円（前年同期比25.1%増）、営業損失8,284千円（前年同期営業損失17,291千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当中間連結会計期間末における総資産は11,203,285千円となり、前連結会計年度末に比べ49,087千円の増加となりました。

主な流動資産の増減は、現金及び預金の増加(前連結会計年度末に比べ540,593千円の増加)、売掛金及び契約資産の減少(同263,255千円の減少)、仕掛品の増加(同189,779千円の増加)、前払費用の増加(同203,048千円の増加)によるものであります。

主な固定資産の増減は、建物及び構築物の増加(同198,403千円の増加)、建設仮勘定の減少(同101,100千円の減少)、投資有価証券の増加(同22,181千円の増加)、長期預金の減少(同747,600千円の減少)によるものであります。

(負債の部)

当中間連結会計期間末における負債は3,568,679千円となり、前連結会計年度末に比べ282,665千円の増加となりました。

主な流動負債の増減は、買掛金の減少(同81,126千円の減少)、短期借入金の増加(同185,000千円の増加)、未払金の増加(同59,286千円の増加)、未払法人税等の減少(同79,161千円の減少)、賞与引当金の減少(同13,067千円の減少)、契約負債の増加(同70,550千円の増加)、返金負債の増加(同9,675千円の増加)によるものであります。

主な固定負債の増減は、長期借入金の増加(同127,147千円の増加)によるものであります。

(純資産の部)

当中間連結会計期間末における純資産は7,634,605千円となり、前連結会計年度末に比べ233,578千円の減少となりました。

主な純資産の増減は、利益剰余金の減少(同249,945千円の減少)、為替換算調整勘定の減少(同17,872千円の減少)、新株予約権の増加(同2,914千円の増加)によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は3,651,652千円となり、前連結会計年度末に比べ1,543,846千円の減少となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は305,704千円(前年同期は284,080千円の使用)となりました。これは主に、税金等調整前中間純損失200,041千円、減価償却費54,497千円、受取利息及び受取配当金△92,319千円、売上債権の減少額261,217千円、棚卸資産の増加額198,697千円、仕入債務の減少額79,785千円、前払費用の増加額201,959千円、契約負債の増加69,938千円、利息及び配当金の受取額77,321千円、法人税等の支払額87,252千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1,484,266千円(前年同期は82,884千円の使用)となりました。これは主に、定期預金の預入による支出2,052,100千円、定期預金の払戻による収入732,850千円、有形固定資産の取得による支出163,691千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は290,203千円(前年同期は231,275千円の獲得)となりました。これは主に、短期借入金の純増加額185,000千円、長期借入れによる収入154,410千円、長期借入金の返済による支出20,929千円、配当金の支払額25,315千円によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和7年6月20日に公表しました第2四半期連結業績予想値と実績値との間に差異が生じました。詳細は、本日(令和7年11月14日)公表いたしました「業績予想の差異発生に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、通期の業績予想に変更はありません。今後、業績予想に変更が生じた場合には、適切に開示してまいります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (令和7年3月31日)	当中間連結会計期間 (令和7年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,195,499	5,736,092
売掛金及び契約資産	472,836	209,580
商品及び製品	216,566	226,245
仕掛品	359,535	549,314
前払費用	499,022	702,071
その他	144,636	101,434
貸倒引当金	△19,925	—
流動資産合計	6,868,170	7,524,738
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,029,034	1,227,437
機械装置及び運搬具(純額)	3,784	3,111
土地	891,075	891,327
建設仮勘定	101,100	—
その他(純額)	206,728	215,503
有形固定資産合計	2,231,723	2,337,380
無形固定資産	39,628	35,290
投資その他の資産		
投資有価証券	1,174,718	1,196,899
長期預金	747,600	—
その他	92,357	108,975
投資その他の資産合計	2,014,675	1,305,875
固定資産合計	4,286,027	3,678,546
資産合計	11,154,198	11,203,285

(単位:千円)

	前連結会計年度 (令和7年3月31日)	当中間連結会計期間 (令和7年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	343,813	262,687
短期借入金	650,000	835,000
1年内返済予定の長期借入金	43,089	49,421
未払金	110,807	170,094
未払法人税等	81,883	2,722
賞与引当金	86,540	73,472
契約負債	73,042	143,592
返金負債	392,637	402,313
その他	185,487	195,547
流動負債合計	1,967,302	2,134,852
固定負債		
長期借入金	974,410	1,101,557
退職給付に係る負債	80,986	85,316
繰延税金負債	104,127	103,988
その他	159,188	142,964
固定負債合計	1,318,711	1,433,827
負債合計	3,286,014	3,568,679
純資産の部		
株主資本		
資本金	568,702	568,702
資本剰余金	558,702	558,702
利益剰余金	5,562,240	5,312,294
自己株式	△56,349	△56,349
株主資本合計	6,633,296	6,383,350
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△33,972	△2,647
為替換算調整勘定	1,160,279	1,142,406
その他の包括利益累計額合計	1,126,306	1,139,759
新株予約権	108,581	111,496
純資産合計	7,868,184	7,634,605
負債純資産合計	11,154,198	11,203,285

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 令和6年4月 1日 至 令和6年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 令和7年4月 1日 至 令和7年9月30日)
売上高	2,447,564	1,244,232
売上原価	1,463,108	607,154
売上総利益	984,455	637,077
販売費及び一般管理費	1,190,412	959,361
営業損失(△)	△205,956	△322,283
営業外収益		
受取利息	96,574	92,147
受取配当金	385	172
為替差益	—	44,881
その他	6,422	3,694
営業外収益合計	103,382	140,895
営業外費用		
支払利息	4,522	7,633
為替差損	29,619	—
その他	160	2
営業外費用合計	34,301	7,636
経常損失(△)	△136,876	△189,024
特別利益		
新株予約権戻入益	708	966
特別利益合計	708	966
特別損失		
投資有価証券評価損	—	1,984
役員弔慰金	—	10,000
特別損失合計	—	11,984
税金等調整前中間純損失(△)	△136,167	△200,041
法人税等	35,688	24,602
中間純損失(△)	△171,856	△224,644
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△171,856	△224,644

(中間連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 令和6年4月 1日 至 令和6年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 令和7年4月 1日 至 令和7年9月30日)
中間純損失(△)	△171,856	△224,644
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40,820	31,325
為替換算調整勘定	△264,882	△17,872
その他の包括利益合計	△224,061	13,452
中間包括利益	△395,918	△211,191
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△395,918	△211,191
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 令和6年4月 1日 至 令和6年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 令和7年4月 1日 至 令和7年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失 (△)	△136,167	△200,041
減価償却費	51,250	54,497
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	743	△19,532
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△37,173	△12,655
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	7,487	4,330
受取利息及び受取配当金	△96,959	△92,319
支払利息	4,522	7,633
為替差損益 (△は益)	69,595	5,106
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	1,984
売上債権の増減額 (△は増加)	△286,757	261,217
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△130,281	△198,697
仕入債務の増減額 (△は減少)	83,519	△79,785
前渡金の増減額 (△は増加)	19	1,974
前払費用の増減額 (△は増加)	164,576	△201,959
前受金の増減額 (△は減少)	2,604	△2,070
契約負債の増減額 (△は減少)	9,128	69,938
返金負債の増減額 (△は減少)	△14,902	11,180
その他	13,722	101,057
小計	△295,070	△288,140
利息及び配当金の受取額	102,354	77,321
利息の支払額	△4,522	△7,633
法人税等の支払額	△86,842	△87,252
営業活動によるキャッシュ・フロー	△284,080	△305,704
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△2,052,100
定期預金の払戻による収入	—	732,850
有形固定資産の取得による支出	△84,650	△163,691
有形固定資産の売却による収入	—	570
無形固定資産の取得による支出	△2,284	△1,780
投資有価証券の償還による収入	1,940	—
その他	2,110	△114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△82,884	△1,484,266
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	270,070	185,000
長期借入れによる収入	—	154,410
長期借入金の返済による支出	△21,590	△20,929
リース債務の返済による支出	△6,171	△2,961
株式の発行による収入	13,790	—
配当金の支払額	△24,822	△25,315
財務活動によるキャッシュ・フロー	231,275	290,203
現金及び現金同等物に係る換算差額	△185,769	△44,078
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△321,458	△1,543,846
現金及び現金同等物の期首残高	4,603,028	5,195,499
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,281,569	3,651,652

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自令和6年4月1日 至令和6年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	学生寮・その他 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,399,748	47,816	2,447,564	—	2,447,564
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,399,748	47,816	2,447,564	—	2,447,564
セグメント利益又は損失 (△)	43,496	△17,291	26,205	△232,162	△205,956

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△232,162千円は、全て全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自令和7年4月1日 至令和7年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	エンターテイン メント事業	学生寮・その他 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,184,392	59,839	1,244,232	—	1,244,232
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,184,392	59,839	1,244,232	—	1,244,232
セグメント損失(△)	△95,537	△8,284	△103,822	△218,460	△322,283

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△218,460千円は、全て全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。